

《2022年6月（通算308回）限定サロン報告》

NPOサロン2002総会後の意見交換会

ーサロン2002の事業と組織を考えるー

【日 時】 2022年6月18日（土）16：35～18：00（終了後はオンライン懇親会 ～22：00）

【会 場】 オンライン（Zoom）

【テーマ】 NPOサロン2002総会後の意見交換会ーサロン2002の事業と組織を考える

【演 者】 中塚義実（NPOサロン2002理事長／筑波大学附属高校）

【参加者10名】 ★はNPO 会員

★春日大樹、★熊谷建志、★小池靖、★関秀忠、★茅野英一、★土谷享、★中塚義実、本郷由希、
★本多克己、皆川宥子

【報告書作成】 中塚義実

【目次】

はじめに

I. 問題提起「サロン2002の事業と組織を考える」（中塚義実）

II. ディスカッション

1. サロン2002のロゴについて
2. 事業について：月例サロンと公開シンポ
3. 組織について：業務の洗い出し
4. 今後に向けて

参考：2022（令和4）年度（通算第8回）定例総会。

開催日時：2022（令和4）年6月18日（土）15時00分～16時25分

開催場所：Zoomオンライン

出席状況：社員総数29名 有効出席数21名（うち12名が委任状による出席）

議決権総数：29個

有効議決権数：21個（委任状による表決委任12個）

決議事項

第1号議案 令和3（2021）年度 事業報告

第2号議案 令和3（2021）年度 決算 および 会計監査報告

第3号議案 令和4（2022）年度 事業計画

第4号議案 令和4（2022）年度 予算

第5号議案 役員の選任：令和4（2022）～5（2023）年度役員

いずれも承認された。

はじめに

特定非営利活動法人サロン2002の通常総会のあと、サロン2002ファミリー限定の意見交換会が開かれた。恒例の意見交換会の趣旨・概要は、6月6日にサロンファミリー宛に送られたメールのとおりである。

《2022年6月 限定サロン（通算308回）案内》 2022. 6. 6. 送信

【日 時】2022年6月18日（土）16：30ごろ～17：50ごろ（18：00からオンライン懇親会）

【会 場】オンライン（Zoom）

【テーマ】総会後の意見交換会ーサロン2002の事業と組織を考える（仮題）

【概要（理事長より）】

特定非営利活動法人サロン2002の通常総会（15：00～16：30予定）後に、恒例の意見交換会を行います。NPO会員だけでなく、多くのサロン2002ファミリーにお集まりいただき、「サロン2002の事業と組織を考える」場にできればと思います。

次の点について意見交換できればと考えます（このほかの話題もOK）。

1. サロン2002の事業－何を、どのように行うか

- ・今年度は「スポーツとアート」「ユースリーグ」の二つのテーマを掲げて公開サロン、公開シンポを計画中。見通しを共有（具体案あり）したうえで、複数年継続して取り組んでいきたい。“遊び心”をいかに育むか。
- ・昨年度の「スポーツと安全」も忘れてはならない。また、「部活動改革」や「TOKYO2020のレガシー」も大事なトピック。他団体と連携しながら、これらのトピックにどう向き合うか。
- ・U-18フットサル事業をもっと盛り上げたい。サロン2002の財産でもある。
- ・HPやSNSの活用など、サロン2002の情報発信のあり方を考えたい。

2. サロン2002の組織－仲間の輪を広げ、深めるには？ 担い手は？

- ・サロン2002ファミリー（わかっている人たちのネットワーク）をいかに広げるか。
- ・ファミリーの外側に広がるライトな層にどのように働きかけるか。
- ・HPやSNSの活用など、サロン2002の情報発信のあり方を考えたい。

3. その他

I. 問題提起「サロン2002の事業と組織を考える」（中塚義実）

「サロン2002」のあゆみについては何度も紹介しているが、ここで改めておさらいしておきたい。

1990年代後半から「社心グループ」の勉強会は毎月行われるようになり、参加者も多様化した。そこで1997年度から月例会を「サロン2002」と呼ぶようにした。月例会の見直しと組織のあり方についての議論を経て、2000年度には「サロン2002」は会員制の組織となった。＜任意団体「サロン2002」はどこへ＞の議論は、時代のニーズを見据えながら、何度も取り上げられてきたテーマである。

2014年度よりサロン2002はNPO法人化し、さまざまな事業を主催できる組織となった。一方、従来のネットワークも「スポネットサロン2002」の名称で維持し、NPOサロン2002が運営するかたちになった。

コロナ禍で、改めて「あり方」を議論したのが2020年度以降である。以下のトピックが挙げられる。

- ・政策金融公庫からの借入返済に不備あり。財務構造を見直し、持続化給付金で財務基盤を立て直す。
- ・サロン2002ファミリーへ名称変更。ファミリーの外側の層への働きかけを模索。
- ・HP見直しを機に「あり方」を再検討。2022年以降（Afterコロナ）にどうつなげるかがテーマ。

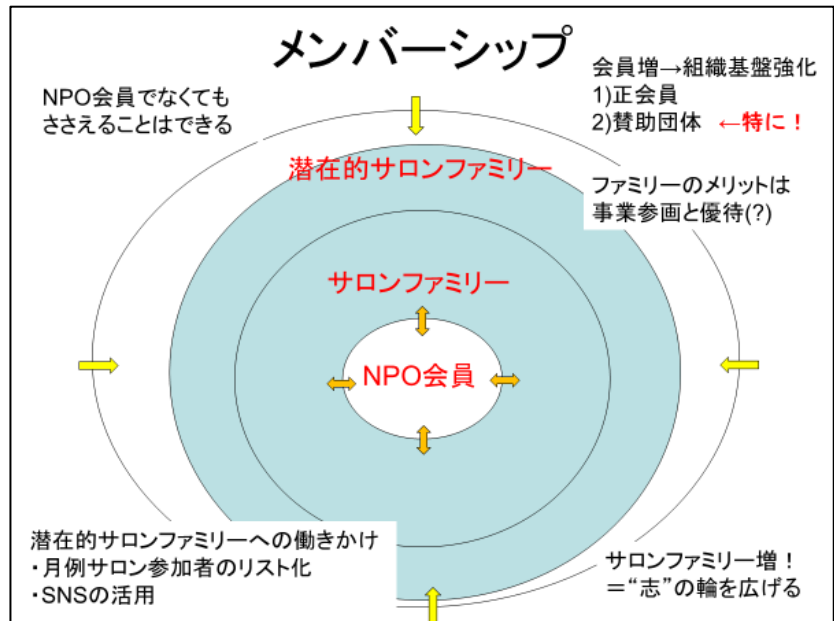
コロナ禍の2020～21年度の成果と課題を改めて整理すると次のとおり。

◆会費は前年度中に納入

- ・メンバーシップが明確化。督促の手間が省ける
- ・会費収入が当該年度の基礎体力となる

◆スポネットサロン2002からサロン2002ファミリーへ名称変更。ファミリー外への働きかけを検討

- ・「JFAファミリー」を参考に、スポーツ文化ネットワークサロン2002（スポネットサロン2002）をサロン2002ファミリー（通称「サロンファミリー」）とし、“志”に賛同し、“Give and Take”の関係を保つ仲間の総称とした。サロンファミリーにNPO会員は含まれる。
- ・サロンファミリーの外側にいる層への働きかけが重要であるとの認識を共有した。



◆月例会は「月例サロン」に名称変更。「公開サロン」と「限定サロン」に整理

- ・サロンファミリー限定の「限定サロン」を設け、サロンファミリーのメリットと位置付けた。
- ・「公開サロン」には多くの方に来てほしいが、「わかっていない人」には来てもらいたくない。また、成果は多くの方に届けたい。その観点からHPの見直しに着手した。
- ・公開サロンの延長上に「公開シンポジウム」を位置づける。年2回の開催を目指す。

◆情報発信のあり方の見直し

- ・2021年度中にHPを改修。そのため予算35万円を確保（実際は手弁当で修正した）。
- ・広報宣伝チームを発足。HPの更新作業等の業務を担いながら問題提起をした。
- ・広報誌『游ASOBI』の位置付けを再検討。2022年度からは公開シンポジウム報告書とする。

◆持続可能なNPOへ向けて

- ・組織としてのサロン2002の業務の洗い出しと、役割分担
- ・「担い手」の発掘・育成

「プロ意識を持ったボランティアとボランティアスピリッツを持ったプロ」の存在が不可欠との認識は従来から変わらないが、コロナ後を念頭に置き、<2022年度以降の「持続可能なNPOのすがた」>を模索し続け、いまに至る。

以下について自由に意見交換したい。

- ・事業…「いつ」「何を」「どのように」行うか
- ・組織…「誰が」担うか

2021年度活動報告書の「はじめに」を貼付する。サロン2002の現状認識である。

参考：2021年度活動報告書（2022年6月18日発行）

はじめに

新型コロナウイルスとの対峙は2年半に及びます。何もわからず「ただ恐れるだけ」だった初期段階から、科学的知見を活かして「正しく恐れる」段階を経て、いまようやく先が見えてきたところです。目指すべきは「かつての日常」でなく、「新しい日常」でしょう。コロナ禍で得た新たな知見を活かしながら、“働き方”“学び方”“遊び方”を含む“生き方”そのもののリニューアルに挑戦する段階にあります。スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げるサロン2002も、持続可能なNPOのすがたを模索しています。

前身の研究会を引き継ぎ「サロン2002」の名称で1997年度からほぼ毎月行ってきた月例会は、10月で通算300回となりました。今年度から「月例サロン」に名称を変更し、一般公開型の「公開サロン」と、サロン2002ファミリー限定の「限定サロン」に整理し直しました。月例サロンは、NPOサロン2002の中核事業です。

年2回の公開シンポジウムは、月例サロンの延長上に位置付けられます。今年度の月例サロンのメインテーマである「スポーツと安全」を11月に、12月には「2021年の総括と展望」と題してJFA100周年、TOKYO 2020、WEリーグなどを取り上げました。いずれもオンライン開催となりましたが、遠方から参加できるメリットは、Afterコロナの「新しい日常」につながるものです。12月末に主管した高校生対象のオリンピック教育事業もオンライン開催でした。TOKYO 2020のレガシーの一つとして、今後もオリンピック教育には力を注いでまいります。

万全の感染予防対策を講じて1月に開催したのが第6回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ（FLCC）です。全国各地でU-18フットサルに取り組む方々が目標とするこの大会は、長野県千曲市にとっても欠かせない年中行事になりつつあります。地域の皆さまとともに育ててまいります。

このほか一般社団法人A-GOALなど、“志”を同じくする団体と連携を図りながら事業を進めることができました。3月には広報誌『遊ASOBI』第5号を発刊できました。U-18FLCCと広報誌は、totoの助成事業です。コロナ禍にあっても、できることをさぐり、続けてこられたのは大きな成果です。

持続可能なNPOのすがたを議論する場を、年8回の理事会以外に何度も設けたことも、2021年度の成果です。2021年1～3月の「情報発信プロジェクト」と限定サロンでの議論は、6月の通常総会でホームページリニューアルの議決につながりました。リニューアル後の12月以降は「情報活用プロジェクト」と限定サロンで議論を深めました。従来の情報発信では届きにくかった層に対して、サロン2002からのメッセージをどのように伝えるかが大きなテーマです。財務基盤の強化、業務の効率化と担い手の発掘・育成も、NPOサロン2002にとって重要な課題です。

コロナ禍の2年半は、自分たちのあり方や方向性を考えるよい機会となりました。「スポーツを通しての“ゆたかなくらし”」のあり方についても、「新しい日常」に沿って考え、行動していく必要があるでしょう。足元をしっかりと見据えたうえで、グローバルな視点で“志”の実現に取り組みます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022（令和4）年6月
特定非営利活動法人サロン2002
理事長 中塚義実

II. ディスカッション

1. サロン2002のロゴについて

中塚：2022～23年度の公開サロンや公開シンポは、2年計画で「スポーツとアート（の背後にある“遊び心”）」や「ユースリーグ（の背後にある育成年代のスポーツ環境の見直し）」をメインに、タイムリーな話題（ファミリーからの話題）を取り上げていきたいと思えます。いまのところ7月19日に土谷さんに登壇してもらうところまで決まっています。

土谷さんは、サロン2002のロゴも作ってくれた方です。コンセプトはスライドにあるとおりです。せっかくなので土谷さん、補足してもらえますか？

土谷：補足と言うほどのものはありませんが、ロゴってというのは、それを使う組織やネットワークのある種の象徴になるので、そこにあるようなことを考えながらロゴを作らせてもらったと記憶しています。バージョンアップしてもいいと思います。企業アイデンティティの本質は変わらないけど、三菱も、積み木のレゴも、時代に合うように少しずつ変えてますよね。サロンもバージョンアップしてよいかもかもしれませんね。

<p>■基本ロゴ1</p>  	<p>■ロゴコンセプト</p> <p>サロン2002の解釈として、設立宣言より以下の3点に注目しました。</p> <ul style="list-style-type: none">○多様でゆるやかなネットワークを持つ情報交流グループ。○サッカー、スポーツを通じて21世紀の「ゆたかなくらしづくり」を目指す。○Give and Take の精神。 <p>そしてこれらを達成するために大切な「人対人」のつながり、サロンという「場」。</p> <p>そこには常に「Face to Face」のコミュニケーションがあります。それは情報交換の基本です。そこでまず、「顔」をシンボルとして取り入れました。</p>  <p>*'Salon'という文字をくずした線</p> <p>*'SALON2002'と書いてあります</p>
---	--

<p>■基本ロゴ2</p>   <p>※基本ロゴの1と2は、どちらでも使えます。紙面等の都合で使い分けて下さい。</p> 	<p>ロゴマークの顔のイメージは「Salon」という文字だけで出来ています。</p> <p>この「顔」の人は「アロン」という名前です。「Salon」のSを外すと、「alon」となります。「アロン」の発音は「alone」と同じです。つまり唯一無二な存在を意味しています。</p> <p>そして「S」は「サッカー」「スポーツ」の「S」。それは「アロンさん」の大切な輪郭を作っています。また、「アロンさん」を手描きで表現し、柔らかさを出しました。</p> <p>そしてアロンさんの配色は、「グリーン」は「芝」、「オレンジ」は「陽射し」を表しています。</p> <p>サッカー・スポーツの恵みで、唯一無二である未来の暮らしづくりを、豊かなものにしていくムーブメント、それがにっこり微笑む「SALON 2002」です。</p>
---	--

中塚：ありがとうございます。ここからは自由に、サロン2002の事業と組織に分けて話をしたいと思います。まずは事業。何をやるか。公開シンポと月例サロンについて、アイデア出しができればと思います。

2. 事業について：月例サロンと公開シンポ

中塚：一つは、11月12日(土)または13日(日)のいずれかで、千曲市で公開シンポジウムをやりたいと考えています。毎年その時期に本多さんと千曲市に行き、地域の観光協会や旅館組合、フットサル連盟の方々と打ち合わせをしています。そのタイミングで地元の人たちに呼びかけ、「あなたたちの地域で行われるU-18フットサル大会はこういう大会ですよ」「全国でこのような活動をしていて、こんなチームが来るんですよ」というイベントが、PRを兼ねてできないか。そして同時に、5月の公開サロンの続きのよう

なこと、各地域のユースリーグの現状と今後について、その後どうなっていったのかについて情報共有できればと考えています。まずはこれについてご意見等があればと思いますがどうでしょう。

土谷：千曲市でもリーグが根付きつつあるということですか？

中塚：千曲市にユースリーグが根付いているわけではありませんが、リーグチャンピオンズカップを第3回大会から4回続けて開催しているので、大会自体は千曲市に定着していると言えるでしょう。

皆川：リーグチャンピオンズカップの時に、お客さんは入っているのでしょうか。

中塚：ここ2年は無観客で、その代わり動画配信サービスをしました。次回あたりは有観客でやりたいですね。最初のころ、地元の人には何をやっているのかわからないというのがあったと思います。せっかく全国規模の大会をやっているのだから、その意義を理解してもらい、地域ぐるみでささえてもらえるものにしていければと思います。

春日：そういう構想は市の方と共有されているのですか。

中塚：千曲市には後援に入ってもらっており、キックオフセレモニーを市長にやってもらったこともあります。長野県サッカー協会フットサル委員長で、日本ウェルネス高校の村山さんが、行政や観光協会などと太いパイプでつないでくれています。最近、多忙で連絡が取りにくくなっているけど…。

春日：高校生年代の大会誘致による地域創生は、行政側にとっても意義のあることだと思います。企業誘致でなくスポーツの大会を誘致することのメリットは大きく、行政側からスポーツの大会を誘致したいという流れになればすごくいいと思います。

中塚：千曲市の「ことぶきアリーナ」は、バスケットボールBリーグの「長野ブレイブウォリアーズ」のホームアリーナでした。しかしB1に上がる際、客席数が足りないということで長野市のアリーナでホームゲームを行うようになったと聞いています。千曲市としてどこにお金を投じるのか。客席に投じられないまま、WiFi環境もよくないまま、いまに至るようです。

春日：スポーツ大会の誘致によって地域が盛り上がることになれば、全国的にも意義のある活動事例として紹介できると思います。

中塚：戸倉上山田温泉は、かつて大いににぎわった温泉街でしたが、残念ながらいまはひなびた印象です。この大会を理解してもらい、地域活性化にも貢献したいと思います。

本郷：別の観点です。今年1月に動画配信の手伝いをして思ったのは、やろうと思えば動画配信ってできるということです。と同時に、年に1回だけそれをするのは難しく、定期的にやってスキルアップする必要があるなということです。例えばシンポジウムを動画配信する。たぶん今後はハイブリッド開催になっていくと思います。YouTubeの限定公開などにしていくと、視聴者も増えるのではないのでしょうか。月例サロンについても、毎月配信するとノウハウもたまりやすく、結果的にコストを下げるができると思います。「誰が担うか問題」はありますが。

熊谷：まったく同じことを思っていました。シンポジウムや公開サロンは、今年の総会のようにハイブリッドになっていくだろうと予測します。どこかに集まってシンポジウムを開催し、全国に配信する形が前提となるでしょう。できる部分はあるはずですが、去年の動画配信で何がうまくいかなかったのか、もう少し検証して対策を考えたいと思います。できることがあるはずですが。

中塚：去年の動画配信の問題点は、ひとえにWiFi環境の脆弱さですね。体育館のWiFi環境を改善してほしいと村山さん経由で伝えてもらったけど、そもそもこのエリアに5Gが来ていないので難しいようです。

本郷：今年については、ネット環境の問題もありますが、ネット環境が貧弱だからとレンタルした機材が、ぶっつけ本番でうまく使えなかったこともあります。都内で行う月例サロンだったらもう少しうまくできるでしょう。千曲市のネット環境さえ整っていればできるようになるのではないかと思います。ネット環境以外にも、慣れが必要という印象があります。月例サロンで何度か配信して練習すれば人的なコストが結果的に低くなり、いろいろな人にも見てもらえるようになるのでよいと思います。

中塚：いろいろな人に見てもらえるのと、いろいろな人が関わることができるというのがありますね。

本郷：YouTubeの限定公開だとみている人が発言しづらいので、そこは考えどころだと思います。

中塚：もう一つ、1月中旬に神戸で、スポーツとアートを絡めた内容で公開シンポジウムができないかと検討中です。現時点で披露できるところまで、土谷さん、紹介してもらえますか。

土谷：神戸市港湾地区にあるKIITOというデザインセンターがあります。そことKOSUGE1-16、アシックスの3者で、年末から年明けにかけて子ども向けのプログラムを計画しています。その合間にシンポジウムができないかと、サロン側、KIITO側に提案しているところです（現時点ではここまで）。

中塚：何か始まりそうだということですね。サロン側からは、それを公開シンポジウムにさせてもらおうという話です。土谷さんには7月19日の公開サロンもお願いしています。先日、上京した土谷さんと浅草の飲み屋で一気に話が進みましたが、この話もう少ししておきたいですね。先ほども出てきたYouTubeの活用、参加費の徴収方法も含めて意見交換できればと思います。

土谷：私からの提案は、18年前にも行った「歯磨き感覚でスポーツは可能か」の内容を引き継ぐものです。スケートボードのフォトグラファーの井関さんに再度ご登壇いただきます。この18年で、スケートボードはストリートからオリンピック種目になりました。サッカーの方は、中塚さんが当時、ユースリーグを日本各地に広めはじめた時期で、DUOリーグが公式のものになるかならないかの駆け引きがあったと思います。当時のサロンのレポートを読み直してみると、公式化することで得られるもの、失われるものについて議論されていて、当時心配していたことがいま的中しています。公式化することで失われるものは、多くの部分が創造性や遊び心。しかし、きちんと行うことで基礎体力が付き、安全で安心な活動となり、公平に機会を得ることが出来ます。そういったことをもう一度、風呂敷を広げてみて内訳を見直し、よかった部分、もっとできた部分など、いろいろ話ができるのではないかと思います。井関さんもこの間、世界中のスケートボードの大会取材したり、ゲリラでやっている人の話を聞いて回ったりしています。先週連絡したときはコペンハーゲンにいました。蓄積された経験、知見、考え方を引き出したいですね。そもそも井関さんは、私の多摩美大の同級生で、美術から始まっています。子どものころからスケートボードにいそしんでいました。高知県出身です。街づくり、都市計画からスケートボードを切り込んでいて、プレーそのものよりも、スケーターが見ている都市が何なのかが彼の視点です。そういった部分を

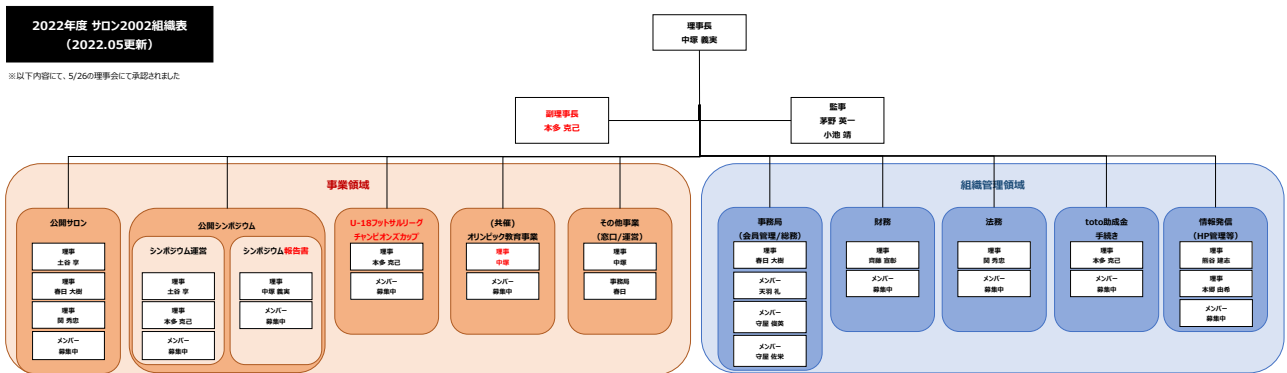
今回のサロンで取り上げ、遊び心の所在を探れるといいかなと思っています。中塚さんのリクエストには、私自身の活動紹介もありましたが、すでに何度かさせてもらっているし、2時間ぐらいの中でどこを深めるかを考える必要がありますね。紙相撲大会や、昨年度、中塚さんにもご登壇いただいた東京都現代美術館でやった「専門家じゃない人」による美術鑑賞プログラムなどがうまく紐づけばよいけど、欲張らなくてもいいと思います。サロンが長く続けている意味、18年後に同じテーマで話ができるのは大きいと思うので、そこに軸を置いた方が濃密な話になるんじゃないかと思っています。

中塚：ありがとうございます。この話をもう少し続けたいのですが、春日君がそろそろ筑波へ戻らないといけないので、事務局でいま進めていることを共有したいと思います。

3. 組織について：業務の洗い出し

春日：すみません。話が前後しますが、事務局側から組織の整理をしているので、その内容を紹介させていただきます。

中塚個人商店という言葉がよく出ていましたが、それを何とか脱却したいというのがオーダーとしてあると理解しています。そのため3つのことに取り組んでいます。一つ目は組織の整理です。誰が何を担当しているのかを明確化することで、5月26日の理事会でみてもらいました。事業ごとに、またそれをささえる管理側の組織。こういったメンバー、態勢で動かしていきたいということで、6月の時点でここまでできています。



次に、毎年同じ時期に同じことをやっているはずなので、年間スケジュール、行事のカレンダーを作っています。公開サロンのタイミングが保留になっていますが、これも毎月第3週ごろというように決まってくると動きやすい。理事会のタイミングも固定してもらえるとよいのではと思います。税金の支払いや諸手続きなど、年間のところは大体つかめていますが、そのあたりを可視化していきたい。

そして最終的に、タスクの洗い出しをします。タスクごとの担当理事、手を動かす人。これらを事業や作業ごとに洗い出しています。皆さんからご意見をいただきながら、最終的にこのような形に落とし込んで

でいきたい。たとえば公開サロンの配信をするのであれば、誰がそれを引き受けるのか。こうしたものを今年1年間かけて作っていきたくと思います。来年のこのタイミングで可視化できれば、人が入れ替わって持続可能なものになるのではと思っています。進捗状況の紹介でした。

4. 今後に向けて

中塚：土谷さんから1月と7月の概要を、春日さんから事務局見直しで取り組んでいることを紹介してもらいました。春日さん、月例サロンで企てていることも、先日電話で話していたけど…

春日：6月に独立したタイミングで、私の大学時代のサッカー部の同期がやっているクラブに経営企画で参画しています。やっていることは、熊谷さんの話の中にもありましたが、部活動改革に関わることです。コーチのアウトソーシング、部活動の地域移行ですね。国の方針が定まりましたが、各市町村ではどうやったらいいかわからない。いま関わっているのは、つくば市でやっている幼児向けのスポーツスクールで、学校という公共の場を使って、施設を利用した収益を図ることや、部活動をみたい顧問に対してペイする仕組みを作ることで、私もそこに参画しています。9月のキックオフを目指して動いています。これ以外にも私のつながりで、部活動改革を視野に入れたスポーツクラブを立ち上げている友人がいます。このような、ユーススポーツ、部活動改革と絡めた話題提供を、公開サロンでできればと思います。

中塚：本多さんとの間でも部活動の地域移行の話が出てきました。本多さんは、別のNPOで芦屋市のスポーツ振興に関わっていますが、芦屋市ぐらいの人口規模で、学校もちょうどよい数があるところで部活動の地域移行のモデルケースができないかと話をしています。そういうのをからめて、ユース年代のスポーツ環境、遊び心を育めるやり方、そういうのを何度か取り上げられたらと思います。

引き続き自由に意見交換しましょう。

土谷：月例サロンの配信のしかたについてです。先ほど本郷さんや熊谷さんが触れてくれた部分は、先日のMTGでも出てきた話題の一つです。僕も車や電車の移動が多く、ポッドキャストを使って情報を入れることが多いのですが、サロンのコンテンツはポッドキャストと相性がよいと思います。2時間ものを30分に区切ってもいいかもしれない。そういった新たなコンテンツを生み出していくとよいのではと思います。シンポジウムでも、オンタイムに集まるのは限られてしまいます。報告書も、必要がないと読もうとしません。HP上に短く紹介されたメディアがあるとよいと思います。

熊谷：理事という立場で、サロンの情報発信、デジタル化などについての全体設計をもう一度整理する必要があると感じています。月例会の参加費徴収方法だけでなく、参加費を支払ってくれた方の管理をどうするか。WEBからの申し込みを導入したときの、次の活用法をどうするのか。もう一度全体設計を見直したいですね。理事の任期の最後には、今後の方向性を示しておきたいし、試せることは試しておきたい。ポッドキャストはよい考えで、YouTube Liveなど、できることはあると思います。何が希望としてあるのか、そのためにどのようなツールがあるのか、新たな契約は必要かなど、検討したいことはいくつかあります。昨年の情報発信プロジェクトの議論の際、私の方でまとめたものがあります。WEB改修の時に、サロンってどういう団体なのかを、もう2、3歩踏み込んで考えないとダメだなと考えました。

中塚：まったく同感です。

皆川：私が事務局をしていたころから変わったこととして、月例サロンの告知と募集にPeatixを取り入れたことがあると思います。会員外への周知が目的だと思いますが、その成果はありますか？事務局が詳しいと思いますが。

中塚：どうかなあ。数字では見ていないけど。ただ、皆川さんが事務局をやってくれていた時は「サロン通信」というテキストしかなかったけど、Peatixに載せるにあたって写真を1枚付けるようになったので、印象が違いますね。スマホでみたときに見栄えが良い。それによって新たな層が来るようになったのかは、一概には言えませんね。これまでもテーマによっては新たな層が来ていたし、WEリーグの時に60人ぐらい来ていたけど、Peatixの効果というよりも口コミで来た人が多かったように思います。まだPeatixの良さが使えているとは思えませんが、皆さんどうですか？

熊谷：効果を知りたいところですが、私の手元にそういうデータはありません。ただ、このイベントに申し込まれた方には他にもこんなイベントがありますよという、付随する効果はあるのではと思いますね。こういうものを使ったこと自体はよかったと思います。

皆川：ポッドキャストも、「耳活」という時間の有効活用、YouTubeでもチャンネル登録があつたり、情報を得たい人に対してすそ野が広がるというのと、一方でチャンネル登録していなくても自分から拾いに行くという両面があるのが普及効果としてあるなと思いました。ただ、媒体がfacebookだけだったのが、Peatix、ポッドキャスト、YouTubeと、広げれば広げるほど、それにともない時間を費やさないといけないし、人手が必要になるだろうと思いました。

中塚：永遠について回る「担い手問題」ですね。アイデアはあっても「誰がやるの？」ということ。

皆川：毎月ともなると実際に行動に移すのは難しいですね。

中塚：参加費徴収問題についてはどうですか。Peatixの手数料を考えるともったいない。それを考えると、当面7月は、我々の持っているゆうちょ銀行口座に振り込んでもらい、入金を確認されたらURLを送りますという形が現実的かと思うけど。

皆川：本当に興味ある人はそれでも参加すると思いますけど、すそ野を広げたいのなら逆効果という気がします。

中塚：参加費というよりも投げ銭の発想で、ボタン一つで入金される仕組みがよいという話もありましたが、それはそれ。HPの運用の話でもそういう話が出ていましたよね。

熊谷：どういう場で作れるか。投げ銭って強烈なコアなファンが出てこないといけないようなところがあります。どちらかというとな音楽業界のライブなどで投げ銭が使われます。冷静に話を聞いて判断するところには向いていないですね。入場料を自動化してとれるようなところを探っていきたいと思います。

本郷：オンライン参加者からお金をとる部分をどれぐらい強くやるのは相談のしどころだと思っていました。個人的には、ファミリーじゃない人が毎月5人、多くても10人程度だろうと。その人から必ずとることを大事にするのか、お金をとらなくても興味を持ってきて、そのうちファミリーになってくれることに期待するのか。個人的には、今度会った時でいいよぐらいでいい気がします、そうするとファミリーとして年会費を払っている人との不公平感がありますかね。

中塚：参加したいタイミングでファミリーになってくれるのが一番早いですけどね。例えば次回だったら、土谷さんの話を聞きたい、井関さんの話おもしろそう、ということで引っかかってくれる人に来ても

raitai。けど、いざ参加しようとしたら1,000円もゆうちょに振り込まなあかん。それで逃してしまうのはもったいない。そういう人は個人のつながりだから大体わかる。だから「今度会った時でいいよ」という徴収のしかたでいいのかなという気はしますね。

本郷：毎回来るんやったらファミリーになった方がいいよと、ちゃんと言ってあげる方がいいですね。

熊谷：仕組みと流れのところは本郷さんが調べてくださっているのですが、実際のケースに合うかどうかは十分ではありません。ここだったら大丈夫というのがまだわからないので、今年度はいろいろ探りながら進めていくところでしょう。

中塚：やれるところからやっていけばいい。そのやれるところが、7月でいうとゆうちょ口座に振り込んでねというところかなと。それを厳密にやるかどうかはともかく…。

土谷：いまの話で思ったけど、WEBコンテンツで映像なり音声なり、ばらけさせていくのはやった方がいいと思うけど、そういったことがサロンの主な事業の中でどういう位置づけになるのかをもう一度見直すべきだと思います。リアルで集うことで得られる情報やコミュニティよりも、そういうものは薄くなる。「それは面白い」と思ってくれる人を少しでも増やすために用いるものだととらえることもできる。主たる事業とすると、サロンの根幹の発想を苦しめる。広報との住み分けをしていく必要があるかもしれない。2時間収録したら全部を出すのではなく、収録するときも20分区切りで小休止を入れ、編集しやすく、取り出しやすくする工夫もできる。

皆川：ネット記事も、ここから先は会員登録のみという感じで、ひき込む工夫が為されていますよね。

中塚：この議論もずっと前からやっています。これまでは月例会報告フルバージョンを大事にしてきました。一方で、これだけさまざまな情報があふれている世の中なので、見せ方を工夫することはとても大事です。これからもリアルの部分は大事にしていきたい。けど、ポッドキャストなど、補足、補完するものとしてやっていくのは必要かもしれないですね。

まだまだ全然話足りないのですが、そろそろ予定の6時です。懇親会で続きの話をしますが、いま言っておきたいことはありますか？

小池さんはいらっしゃいますか。ここまでコメントがあれば。

小池：サロンでどんなことを発信していくか。見せ方についてはフルバージョンでの公開の意義を理解していますが、引き込むための工夫が別のベクトルとしてあってよいと思います。出し方を工夫することで、サロン2002が持っている魅力を発信していくことができるのではないかと考えます。

中塚：本郷さんはそろそろ試合の準備ですかね。

本郷：僕もそろそろ行ってきます。ありがとうございました。

中塚：いったんこの場はおしまいにしましょう。10分後に乾杯ということで。6時8分です。いったんお開きです。

(続きはオンライン懇親会)